

# 水戸赤十字病院泌尿器科後期臨床研修プログラム

## 1. プログラム名称

水戸赤十字病院泌尿器科後期研修プログラム

## 2. 研修期間

4年間

## 3. 研修について

### 1) 目的

卒後初期臨床研修を修了後、泌尿器科学総論・一般泌尿器科診療・泌尿器科基本的手術手技に必要な基礎知識ならびに技術を修得し、泌尿器科関連領域（サブスペシャリティ）の基本的知識と技術を包括しながら、生涯に亘って修練を継続する泌尿器科専門医の育成を目的とする。

泌尿器科専門医資格試験は4年間の研修修了後の翌年（卒後7年目）に実施され、その合格を目指す。

### 2) 到達目標

- ① 泌尿器科基礎知識の習得
- ② 診療技術（症状や徴候からの疾患の推定、診察法や検査法の習熟、一連の検査結果の評価・診断・治療選択に至る技術）
- ③ 泌尿器科的処置技術
- ④ 手術手技（適応を決め、手技を修得し、治療前後の管理ができる）
- ⑤ 化学療法の基礎的理解
- ⑥ 医療倫理・医療安全・医療法制・医療経済の理解
- ⑦ 学術集会への参加、発表（症例提示や討論ができる）
- ⑧ 生涯に亘る自己学習の習慣を身に付ける

## 4. 研修コース責任者（指導責任者）

泌尿器科部長	野澤 英雄	日本泌尿器科学会専門医・指導医 泌尿器科腹腔鏡技術認定医制度認定医 日本内視鏡外科学会技術認定医（泌尿器科領域） 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本性機能学会専門医 日本東洋医学会漢方医
--------	-------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 5. 診療科の指導体制

### 1) 医師数 合計3名

泌尿器科部長	野澤 英雄	上記
泌尿器科副部長	大塚 勝太	日本泌尿器科学会専門医・指導医 泌尿器科腹腔鏡技術認定医制度認定医 日本内視鏡外科学会技術認定医（泌尿器科領域） 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
泌尿器科副部長	露崎 康一	日本泌尿器科学会専門医・指導医

## 6. 募集

- 1) 募集人数 1名程度
- 2) 募集方法 募集要項参照

## 7. 研修の概略

後期研修期間	研修内容・到達目標
1-2年目	<ul style="list-style-type: none"><li>・泌尿器科学総論および各疾患の理解。</li><li>・基本診療手技、泌尿器科特有の診療手技の習得。</li><li>・透視や内視鏡検査手技の習得。</li><li>・経尿道的手術の術者としての手技習得。</li><li>・開腹手術の解剖学的理解、助手としての役割習得。技量に応じて術者としての手技習得。</li><li>・腹腔鏡手術の助手としての役割習得。</li><li>・学会等でのプレゼンテーションの指導。</li></ul>
3年目	<ul style="list-style-type: none"><li>・泌尿器科学総論および各疾患の理解。</li><li>・各種診療手技・検査が独力で遂行・評価できる技能。</li><li>・経尿道的手術の術者としての手技習得。</li><li>・開腹手術の術者としての手技習得。前立ちの重要性を理解する。</li><li>・腹腔鏡手術の助手、技量に応じて術者としての手技習得（特に腎・副腎）。</li><li>・ロボット支援手術の理解、チームとしての参加。</li><li>・学会でのプレゼンテーション、論文作成の技術習得。</li></ul>
4年目	<ul style="list-style-type: none"><li>・研修4年目の総括として泌尿器科学の体系的理解。</li><li>・指導者レベルの診療手技や検査に臨む。</li><li>・経尿道的手術の術者。</li><li>・開腹手術での術者。前立ちとして自立する。</li><li>・腹腔鏡手術の術者としての手技習得。</li><li>・ロボット支援手術の助手や術者としての手技習得。</li><li>・学会・論文発表を行える。</li><li>・泌尿器科専門医資格試験の対策。</li></ul>

※ あくまで目安であり、個人の習熟度や技量にあわせて目標は設定。

## 8. 取得可能な専門医等資格

- ・日本泌尿器科学会専門医
- ・同 指導医（専門医取得後、5年間の別に定める研修実績・業績が必要）
- ・泌尿器腹腔鏡技術認定医制度認定医（専門医取得後、手術実績と技術認定審査が必要）
- ・その他のサブスペシャリティー認定

## 9. 後期研修後の進路

泌尿器科専門医を取得後の進路については、希望に応じて、

- ①泌尿器腹腔鏡技術認定取得までの技術訓練
- ②サブスペシャリティーとしての修練
- ③泌尿器科指導医取得までの研鑽

を引き続き当院で行うことが可能。もちろん、他院での勤務変更も可能。